

---

# 最高にORANGEな夏・もしくは冬

KAZA

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

最高にORANGEな夏・もしくは冬

### 【Nコード】

N5742C

### 【作者名】

KAZA

### 【あらすじ】

薫は彼氏いない歴十七年。ほとんど恋愛なんて投げていた薫だったけど、夏休みにオーストラリアにホームステイに行くことに！！そこで起こるさまざまな出来事、そして出会い。。ありえないようにうで実はホントの、真夏の（いや真冬の？）元気になれる恋愛小説。

## ORANGE\*1

窓の外は真っ暗で雲と月しか見えない。

『本機はただいまグアム上空を航行中です。』機内アナウンスが流れる。あーもうっ！せっかく窓際なのに、真っ暗で何も見えない。グアムなんてどこにあるのよ！ていうか、飛行機のエコノミー席がこんなに狭いなんて知らなかった！狭すぎて眠れないし！！

隣の彩花と亜優は気持ち良さそうに、スー―寝息をたててる。飛行機のとて、機内食食べて、その後御就寝。そんなんでえんかーい！しゃべったり、映画見たりしないの???突っ込みたくなるあたしだった。

あたし、風間 薫。今、花の高校二年生。東京の町田で家族五人（人〃3、猫〃2）と暮らしてる。お父さんは空間デザイナー、お母さんは図書館の司書、猫2匹は。IT企業に。オット！あたしはというと、持ち前のさばさばした男っぽい性格のせいで、『なんかさあー、おまえ女って言うより、男友達って感じ』といわれつづけ、ついでに彼氏イナイ歴十七年のさもない女。あつ、だめよ！そんなこと考えてたらずもない女オーラがでてしまう！！

。。話はわかるけど、皆、なんであんなところから話が始まってんの!??って思ったよね（あたりまえだろ！）

それはというとね！。

。あたし、薫こと風間 薫は夏休みにオーストラリアに一カ月間ホームステイすることになったからなのです！！英語力があーッ！！イヤーッ！

お母サマのすすめ（脅迫）で渋々いく気になったんだけど、はじめは憂鬱でしうがなかった。だって、英語は一応得意だけど（自称）、向こうで喋れないのに一カ月も生き抜けると普通思う?!思わないよね?!あ

たしは出発（7月24日）が近づくにつれて、だんだん生きた心地がしなくなってきた。

。。。。でも遂に出発の前日になってしまった。。。。

翌日のことで朝から最高にブルーなあたしの元に友達からメールがきた。『薫、いつてらっしやあーい（＊　＊）向こうでイケメンつかまえる　ついでにおたんじょーびオメデトツ』こいつ！自分は彼氏いるからって！てか誕生日はついにかよ！ん　でも。。。。まてよ。。。。これはチャンスかもッ！そうよッ！英語なんか喋れなくてもいいのよ！愛は国境を越える！日本の貧困な男なんか捨てて、リッチでアダルトな世界へGoよッ！　さらばさもお！（さもしいおんな）　とかなんとか勝手に思ってたあたしは出発の日をむかえたのだった。

。今考えるとこれは必然だった。。。。のかもしれない？最高にオレンジな夏の。。。。いや、冬の？

その日あたしは朝フツーに起きて一時くらいに家をでた。

あー朝ご飯のはんぺん最高　やっぱり日本食に勝るものはないわね。成田までは車で行くから、重い荷物をもたなくて済みそうでラッキー。確か7時半発の飛行機だったな。。。。あたしはそんなコトをぼんやり考えながら車に乗り込んだ。　車のなかでは好きなバンドの歌をかけつつ、昨日のことであたしはめっちゃわくわくしてた。

お母さんが、向こうではお行儀良くね、とか小言を言ってたけど、あたしには聞こえない。

だってあたしの頭のなかはミュージカルみたいになってるんだもん。さもおよサラバー　ってカンジのね。

成田には予定より遅く着いちゃっ

て、時間がなかった。

もう駆け込みで搭乗しなきゃ。。。。お父さんとお母さんにいつてきます！って元気にいったのはいいものの、正直、この歳でやるのはハズかった。。。。そして、両親と別れた後、初めてツアーメイトとこ

対面！ツアーメイトはあたしも含めて十四人。西は大阪、東は宮城まで。年もばらばらで一番下の子はナント中学校二年生！英語、勉強して一年ちよつとじゃつらいだらうなあ。ちなみに高二は一番年上。あたしのほかには6人。皆、フレンドリーそれで良かった。すこし、安心。

『せまーい！こんなんじゃ絶

体からだ痛くなる！』彩花が言った。

『飛行機で一晩だからつらいよねえ』亜優が答える。あ、彩花と亜優はツアーメイト。会ってまだ少しだけど、結構仲良くなったんだ。飛行機の席が三人並んでたからね！ちなみにあたしは窓際！ラッキー。とか思ってた意気揚々と乗り込んだわけだけど、二人の言うとおり！さすが、エコノミーは席が狭い。。。お金持ちになって、せめてビジネスクラスに座りたいよー！あ、なんかナゾ！ってヒトの為に説明しとくねー！飛行機の座席は3クラスに別れてて、上からファースト、ビジネス、エコノミー。ファーストクラスは大物政治家とかセレブの席で、バーとかもあって席は数十万するらしい。ビジネスはエリート会社員やプチセレブの席。席の広さはエコノミーの1・5倍つてとこ。でもこれでも十数万するんだよ。そして。エコノミーはあたし達一般庶民の席。座りごこちとかは。これから一緒に体験して！！

席に着くと、想像どおり狭かった。

『まもなく離陸します』機内アナウンスが流れる。あたし、飛行機のグワッてあがるのキライなのに。

ギャーッ！抵抗も虚しく飛行機はスピードをあげて行った。。。

飛びそうな意識のなかで、日本の夜景が見える。行ってきます！帰ってくる時には一回り成長してくるから！！

陸から飛行機が離れる感じがした。

ここまで読

んでくれてありがとうございます。恋愛小説のつもりですが、ここまで一度も恋愛要素がないという。ですが二章目からは少しずつばら色になる予定なので気長に待っていてください。読み終わったときにはあなたも題名と同じ、オレンジ色に染まってくれと嬉しいです。

飛行機が離陸して早三時間。

なにもすることが無い。

彩花も亜優も機内食を食べてから早々に寝ちゃったし。

さつきグアムの上って言ってたけど、今は夜の十時半。

当然ながら外は真っ暗で、月と雲しか見えない。

あたしはあまりに暇でちょうど始まった韓国映画でも見ることにした。

映画はありきたりなサクセスストーリーだった。

まあ、時間つぶしにはなったけど。

外は相変わらず真っ暗だった。

今はたぶん十二時位じゃないかな。

てことはもう今日オーストラリアにつくんだ。

ちなみにあたしが行くのはオーストラリアのアデレード。

南極海に近い英国風の小さくてきれいな町らしい。

なんだかそれだけでも幸せだったけど、せっかくオーストラリアに

行くのに、シドニーにもキャンベラにも行けないのは残念だった。

観光旅行じゃないから、しょうがないけど。

。あたしがいくのはシングルマザーのジョリー家で兄弟は二人。

十二歳の男の子と十一歳の女の子。あとスペインから留学生が二人

きてるらしい。。行く前に事前に知らされているのはそれだけ。

今のあたしの生活とはずいぶん違う環境に行くことになる。それよ

り。スペイン人って。。いったいなんなんだろう。

そんなことを考えていると、あたしは徐々に眠くなってきた。あたしはこのまま考えていてもしょうがないのでしばらく眠ることにして、外の月を眺めながら目を閉じた。

朝、

横の亜優に起こされた。『薰！朝よ！もうすぐ朝食だから起きて。』

首が痛い。寝違えたみたい。窓の外は薄紫色になってきていてとても綺麗だ。

『今何時？』

『四時半よ。』

飛行機の進路図で確認してみると、もうすぐオーストラリアに入りそうだった。

アデレード

へは東京からの直航便がないから、あたし達はシドニーを経由してアデレードに行くことになっている。後一、二時間でこの飛行機ともお別れだ！

あたしは座り続けて

足がばんばんになっていたから、もう少しで解放されると聞いてすごく嬉しかった。あたしは下りる準備を始めた。

シドニーの空港につくと、猛烈に寒かった。忘れかけていたけど、こっちは冬だったんだ！北半球の日本が真夏なのに対してこっちは真冬。夏休みなのか、冬休みなのか。。。

シドニーの空港も楽

しそうだったけど、乗り換えの時間がせまってたから見ている暇がなかった。シドニーからは国内線に乗っていく。オーストラリアは国土が広いから、日本の新幹線感覚で飛行機を使う。これからの飛行機はオーストラリアの航空会社。ここで日本語ともとうとうお別れだ。なんだかこれからはこの言葉が通じないなんて不思議だった。

アデレード行きの飛行機に乗り込むと、覚悟はしていたけど、ああ、外国に来たんだなあって思った。話している言葉がわからないし、自分みたいな外見のヒトも少ない。なんだか急に心細くなった。

シドニーからアデレードまでは二



時間位ですぐに着いてしまった。来るときはボーイフレンドの一人や二人、つくつてやるぞ！と意気込んでたけど早くも帰りたくなつた。だって一カ月も生き抜ける自信無いもん！

でもそんなあたしの気持ちとはうらはらに、飛行場には迎えのスクールバスがもう来ていた。そう、あたし達はこっちで毎日学校に通うの。せつかく日本は夏休みなのにね。

出迎えてくれた校長先生はハンブティダンブティみたいな体型で鮮やかな紫のスーツを着ていた。やさしそうな人で、何か言っていたけど何もわからなかった。。。

あたし達を乗せたバスは町中を走っていく。こっちの家は日本みたいに二階建とかマンションじゃなく、だいたいが平屋だてだった。なんかレゴの世界に迷い込んだみたい。でもアデレード一帯は日本の気候とにってるから、空や緑から受ける印象は同じだった。日本の北海道です。って言われたら納得するかもしれない。唯一の違いは地平線が見えるところくらい？あたし達はアデレードって言っても、そこから車で二時間位いった田舎にいく。窓から見える景色がだんだんありえなくなってきた。

バスが止まった先は学校。学校は木に覆われて、周りはひたすら草原だった。学校の前に申し訳程度の商店街があるだけであとは本当に何も無い。あたし達はいったん学校に集合してから、各自の家の人に迎えにきてもらうことになってる。あたし達はスクールオフィスに通された。ここでホストファミリーを待つらしい。

がちゃ

可愛いブラウンの髪の男の子が『ユウ！』と言って駆け込んできた。どうやらツアーメイトの北 悠君のホストファミリーらしい。悠くんと握手して何やら話し掛けている。その後も続々と

ホストファミリーが迎えにきて、半分くらいは皆行ってしまった。

あたしは迎えに来てくれないんじゃないかってだんだん不安になってきた。  
その  
時――。

がちや

緑色の目のすぐくっこいい

男の子が入ってきた――。

### ORANGE\*3

かつこいいゝ…

皆が茫然として見守る中、その男の子はあたしの方に近づいてくる。

『薫かな?』

(以下英語で

す。)

あまりのこ

とに一瞬意識が飛んでいたあたしだけど、正気に戻った。

(えっ 英語だ。。こつこたえなきや)

突然あらわれたハン

サムな男の子と英語にしどろもどろになりながらもあたしは答えた。

『えっ、ええ。』

『そうか。よろしくね。僕はパブロ

です。スペインから来てる。』

(えっ、この人が留学生? てか、英語  
しゃべってるし。。ちよつとなまってるけど、うまいじゃん!)

『さ、

行こう。荷物はそれだけ?』

そう彼は言うのと、あたしの荷物を  
持ってドアに向かってスタスタ歩きだした。

あたしはあわてて彼を追い掛けて

外にでた。

外には車が待っていて、中から猛烈にビツクな女性が飛び出してきた。  
『薫ね! 会いたかったわ。ま

あ、思ったとおりかわいいわ。ねえ、パブロ!』  
『そういつてその  
エリカさん  
女性はあたしを抱き締めた。あたしは突然のことにしどろもどろに  
なっていたけど、パブロはその様子をほほ笑みながら見ていた。』

荷物を積み込み、あたしが

後部座席に座ると車はすぐに発車した。すぐに家に向かうのかと思  
ったが、その前によるところがあるという。

『あたしのフィアンセのうちなの。パブロ  
がサッカーをやってるんだけどそこに近いから、彼の家で準備をし  
てからいくのよ。』

ちなみに エリカは三十八歳。

旦那さんとは離婚したそうだ。

（向こうは日本よりずっとシングルマザーなどが認められている。  
今はバリーさん（これから向かう家の主人）という恋人（婚約者）  
がいて十一月に結婚するらしい。

あたしは自分とのあまりの境遇の差と慣れない言葉と長旅の疲れ  
からそのまま死んだように眠り込んでしまった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5742c/>

---

最高にORANGEな夏・もしくは冬

2011年1月4日23時30分発行